



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
インターネットでも
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

護岸工事は「風まかせ」

浸食すむ海岸の
護岸対策を申し入れ

「毎日海辺を歩いているが、どんどん砂浜がなくなり、防波堤もくずれて心配」という声が寄せられ、日本共産党市議団では現地を確認し、2月22日に県の土木事務所に申し入れをおこなっていました。

満たされたため、国の災害復旧の対象となつたが、中郷地区の海岸は対象とはなっていない。もし今年、決められた基準を超える強風や波浪が観測されれば、それにもとづいて来年度の事業として申請をする」

県側の話をとると、「昨年の10月と12月の波浪によって消波ブロックなどが被害を受けたことは確認している。応急処置として、立ち入り禁止の柵を設置する対策をとった。二ツ島地区や高萩市の赤浜地区は、被害当時の気象要件が



小野矢指地区の海岸



この1月に立てた柵がすでに曲がってしまっている。(足洗地区)

今回のようなばあい、災害復旧事業として国の補助を待つのみで、県としては護岸のための予算は確保していないという実態が明らかになりました。党市議団としては、ひきつづき地元市民の声を聞きながら、行政にも適切な対応を求めていく考えです。

おりしも申し入れの前日、

茨城県の07年度予算案が内示されました。船の来ない常陸那珂港の予算は倍増されるなど、あいもかわらずムダな大型事業には多額の税金をつぎこむ中身となっています。(裏面参照)

市民の期待にこたえる 本来の議会改革を

2月21日、市議会の議員全員協議会が開かれました。このなかで、何人かの議員から「市民から言われる前に議会として削減を決めるべき」「議員定数削減は全国的な流れである」「あるていどの削減は民意。2名ぐらいが妥当」といった意見が出されました。同時に「すでに2期にわたって計4名の定数を削減し、議会としての努力はしてきた」「法定定数どおりではないのか。削減すればそれだけ市民の声が反映しない」「削減ありきで進めるべきではない」と慎重な意見も出しました。日本共産党市議団は、「議



県の土木事務所で

市議会全協で
議員定数について協議

員定数の問題は、とにかく効率化して経費を減らせばいいという問題とは本質的にちがう。大切なことは充分な審議が保障できるかどうか、住民の声を議会や行政に反映できるかどうかであり、その基準となるのが法定定数26名である。現在、本市は2名減の24名であり一概に多いとはいえない。また、定数削減が言われるのは、何よりも議会が市民のためになつていないと映っているからである。市民の期待にこたえる議会をめざした本来の改革を含めて議論すべきである」と発言しました。この議員定数問題は引続き協議するこ

オランダ料理で交流

ユネスコ協会



北茨城ユネスコ協会では活動の一環として、地域に居住する外国人による料理教室を開いています。

2月18日の教室では、中郷町の蛭田さんから、奥様のイングリットさんの母国、オランダの身近な家庭料理が紹介されました。同じ「揚げる」「茹でる」といっても我彼のちがいに驚きの声。肉団子を多めのバターで30分もかけて焼き付けるなど、料理法や塩味の加減の違いなど興味深い時間でした。試食後は、オランダの国について、風車にまつわるお話や、海岸線の護岸などクイズ形式で楽しく学び、交流を深めました。

国際ボランティア医療

PTAの講演会

磯原中学校区にある3校PTAの講演会が明徳小多目的ホールで開催されました。講師は、北茨城市立病院の医局長で、小児科医の小宅泰郎先生。

「国際ボランティア・バン グラデシユの小児科医療支援に従事して」と題し、市立病院に赴任される前、3年近くにおよぶバン グラデシユでの医療支援の経験のお話でした。国際的な南北格差の問題から、じつさいの医療業務の困難、さらに現地の子どもたちのたくましさなどが紹介されました。



格差の問題から、じつさいの医療業務の困難、さらに現地の子どもたちのたくましさなどが紹介されました。

終日の議長選後に常任委員会委員の選任が行われます。また、地方自治法の一部改正が予定されており、議会招集権が議長にも与えられる(議運の議決が必要)こととなります。